



のぼた たくみ  
野畑 拓海さん  
(桑村小学校6年)

「未来へと続く原生林」は、自然を減らすことなく大切に守り続けてきたので今度はぼくたちが守り続けていかなければならないと思うようにな

りました。探検当日、原生林で大きく息を吸い込むと「空気が新鮮だな」と思いました。この新鮮な空気は原生林が作り出したもので、木が原料となっている紙

最近、「自然破壊・森林破壊」という言葉をよく耳にします。ぼくは、森林を守るために誰にでもできることを二つ考えました。一つ目は、木が原料となっている紙



みぞぐち し の  
溝口 詩野さん  
(丹那小学校6年)

「信頼される6年生に」生になるために、私は三つの目標を立てました。一つ目は、下級生に優しく接することです。私は自分から話しかけることが苦

手です。自分を成長させるために自分から話しかけることに挑戦し、大きな声でわかりやすく話すことを心掛けたら会話が楽しくなりました。二つ目は、相手の気持ちを考えることです。縦割り集会で、自分勝手なことをしている人に

怒ってしまいました。いけないことを伝えることは大切ですが、相手のことを考え、自分も相手も良いと思う行動をしたいです。探検当日、原生林で大きく息を吸い込むと「空気が新鮮だな」と思いました。この新鮮な空気は原生林が作り出したもので、木が原料となっている紙



たにくち ちさと  
谷口 千里さん  
(函南小学校6年)

「自分たちにできること」をつけると崩壊した家や建物が津波によって流されていって言葉が失いました。大きな被害が起きたのは東北が中心で

たが私たちにとても驚くべき事件でした。私もできることをしたいと思い、アルミ缶の回収や募金活動に協力しました。5年生になると今度は自分が呼びかけをして多くの人に協力してもらいました。募金箱を持って教室を回ると、すべての人が協力してくれて、一人一人が協力することで大きな力が生まれることを改めて知りました。

地震が起きてから2年の月日が経ち、地震に対する意識が低くなってきたと感じます。私は改めて家族で避難方法などを話し合ってみました。父が不在のときなど今でも家族で真剣に考えていく必要があると思います。震災の記憶が薄れてきた今、一人一人ができることはなんだろうか。それは、自分のできることを真剣に考えることではないでしょうか。地震に備えて今できることは何ですか。



特集  
青少年健全育成大会  
2013.7.7  
はじめ

平成25年度  
青少年健全育成大会

# 私たちの 思いを 伝える

子どもたちは地域の宝です。子どもを育てることは未来の地域を支える人材を育てることです。次代を担う子どもたちが未来に向けての夢や社会への意見、日常生活で感じたことなど、自分たちの気持ちを表現するのが青少年健全育成大

会の「わたしの主張発表」です。7月7日(日)、函南町中央公民館大ホールで開催されたこの大会に、町内の小学校5校、中学校2校、高校1校の計8校の代表者が主張発表を行いました。また、「わたしの主張発表」の後

に、第63回社会を明るくする運動ポスター特選者の表彰、大人のためのウェブチェック講座が行われました。代表者の主張の主な内容を紹介いたします。未来を担う子どもたちの考え

問合せ/生涯学習課 (979-1733)